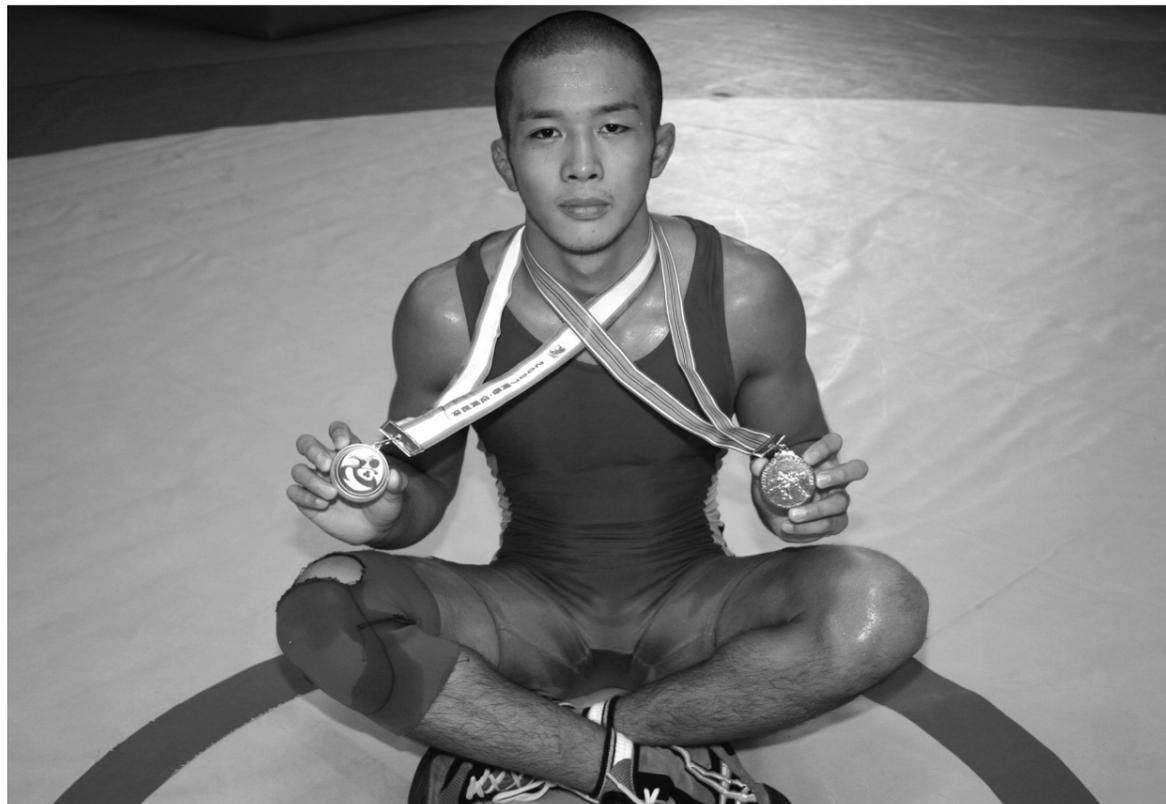


闘虎

No. 11 Wrestling

群馬県レスリング協会広報紙
平成19年 夏季号



1夏2冠！富塚色の夏！

富塚拓也、インハイ・全グレ優勝

8月2～5日、佐賀市立諸富文化体育館において「全国高校総体（インターハイ）」が行われた。本県代表選手の中で優勝候補に挙げられていたのは、66kg級の富塚拓也（関学大附高3年）。最後となるインターハイに賭けていた富塚は、順当に決勝まで進出し、宿敵・生天目（霞ヶ浦）と対峙した。3Pまで纏れ、ラスト10秒までリードされる大苦戦。富塚は組み付いて、のるか反るかの勝負に出た。投げ合いの末ビデオ判定になったが、富塚の手が上がり、群馬代表としては長島兄弟以来、関学大附高からは今村吉亜以来のインターハイ優勝を成し遂げた。その勢いを駆って全国グレコローマン選手権大会（8/17～19・大阪府金岡公園体育館）でも優勝。現在、3冠目の秋田国体での優勝を目指して、日夜練習に励んでいる。

◆発行／群馬県レスリング協会会長 柳川益美 ◆編集／群馬県レスリング協会広報委員会

クラブ探訪

レスラーファクトリーを訪ねて

第11回 館林高校



高校レスリングの聖地！
全国に名だたる伝統校！

「頼もしきかな わが選手 天下に誇る 技多し」。これは館高校歌の一節です。一クラブが校歌で歌われるなど、他に例はないでしょう。

昭和25年、故正田文男さんが早稲田大で学んだレスリングを母校に持ち帰り、故野木村浩さんと共に部を発足。29年には伝説となっている第1回全国大会を館林市三の丸公園で開催し館林高校が団体優勝。その時のメンバーに兵藤三郎前会長がいたことは有名な話です。それ以来、五輪2連覇の上武洋次郎さんを始め、数多くの名レスラーを輩出。まさに全国屈指のレスリング県に仕立て上げた伝統ある名門校です。

最近のOBでは、松本隆太郎選手（日体大4年）が最も五輪に近い位置にいます。今年のアジア選手権では、その松本選手と長島和幸選手、米山祥嗣選手の3OBが代表に選出され上毛スポーツ一面を飾りました。

「練習時間が取れないので、練習の質を高める。潜在能力を高める。選手の意識を高める。そして社会へ出ていける人間、男らしい男を育てたい」。第十代目監督・針谷豊さんの言葉です。そういえば館高校歌は3番とも、こう結んでいます。「男子の意気は 二二に見る」。

SCHEDULE

- 国民体育大会
10月5～8日
秋田県
- 県民総体・県高校新人戦・
県小学生総体
11月4日（日）
館林市城沼総合体育館
- 上武洋次郎杯邑楽町
少年レスリング大会
11月18日（日）
邑楽町体育館
- 千代田町近接少年
レスリング大会
12月1日（土）
千代田町総合体育館
- 都市交流大会
12月16日（日）
館林市城沼総合体育館



坂上桂一さん（明和町・35歳）

インターハイレスリング

（思い出の一片）

□この写真は私が関学附高3年のときの徳島インターハイです。春の全国選抜で2位だったので、インターハイは絶対獲るぞという気持ちで臨みましたが、3回戦で選抜で勝っていた相手に私の得意とする投げ技が全部読まれてしまい、負けました。やはりタックルの重要性が身にしみて分かり、指導者となった今ではそのことを子供たちに教えています。私は高校、大学（日体大）と苦しい青春時代をすごしましたが、同級生の小柴健二がいたからこそ耐えられたのだと思います。インターハイといえば、明和クラブ出身で高校も私の後輩に当たる富塚拓也が見事優勝しました。うれしい反面、もう私は越されてしまったなという悔しさもあります。でも、こんな悔しさなら何度でも味わってもいいです。ドリカムじゃないですけど、「うれし悔し大好き」という感じですね。

HERO'S IN GUNMA



富塚 拓也選手 (関学大附属高3年)

最後のインターハイで、高校最後のフリーだったので、かなり気合を入れて臨みました。決勝の生天目選手には、中学時代と高校の関東大会で負けていた相手だったので、これが初勝利です。優勝した瞬間は信じられなかったです。この喜びは坂上先生始め明和クラブの先生方と兵藤先生に伝えました。大学でも気合を入れていきます。松本隆太郎先輩を目標にします！



兄が全中優勝なら弟は全少優勝！

のとおり多数の入賞者が出た。
【小学5年】◇42 kg級 ①木村優太(千代田) ②萩本龍(同) ◇+54 kg級 ③石岩寛鷹(邑楽)
【小学3年】◇36 kg級 ③田部井祐太(邑楽)
【小学1年】◇26 kg級 ③石川弘人

9月1日(土)、城沼体育館で館林市民秋季レスリング大会が行われた。次週会津たじま大会を控え、さらにその翌週は関東中学生を控え前

渡邊龍斗が希望の優勝！ 太田俱樂部8階級V 館林市民秋季レスリング大会

(邑楽)
【女子3年】◇33 kg級 ③石岩三奈(邑楽) ◇+33 kg級 ①阿部友香(明和)
【女子4年】◇36 kg級 ③大出若奈(千代田) ◇+36 kg級 ③小林舞衣(太田)
【女子5年】◇26 kg級 ②早瀬茜(明和) ③坂本美奈実(大間々)

7月26日から9日間、アメリカ・インディアナ州チームが群馬を訪れ、太田、千代田、伊勢崎をまわり、各地で熱い交流が行われた。

今年もインディアナ！ 各地で熱い日米交流 日米親善レスリング交流事業

哨戦となった。優勝者は次のとおり。
【中学生】◇42 kg級 木村安里(千代田) ◇47 kg級 金子佐(同) ◇53 kg級 畑本顕司(おおた) ◇59 kg級 鈴木海人(太田) ◇66 kg級 栗原吹(千代田) ◇73 kg級 木村政貴(同)
【小学5、6年】◇30 kg級 八山裕紀(千代田) ◇34 kg級 寺田光輝(太田) ◇39 kg級 萩本龍(千代田) ◇45 kg級 渡邊龍斗(太田) ◇51 kg級 富澤憲佑(伊勢崎) ◇+51 kg級 石岩寛鷹(邑楽)
【小学3、4年】◇24 kg級 江田健二郎(館林) ◇34 kg級 寺田有輝(太田) ◇39 kg級 柴崎世真(館林) ◇42 kg級 鈴木芽衣(太田) ◇+42 kg級 小林舞衣(同)
【小学1、2年】◇20 kg級 清水翼(邑楽) ◇24 kg級 石川弘人(同) ◇28 kg級 吉田佑輝(太田) ◇+28 kg級 西川真由(伊勢崎)
【幼年】◇17 kg級 清水聖矢(邑楽) ◇21 kg級 高橋玲菜(館林) ◇+21 kg級 佐々木颯斗(太田)

親善試合では、四国地方の雄・今治ジュニアがオール太田を圧倒。試合後は合同練習で切磋琢磨し、そのあと市内観光では、三日月村、ジャパンスネークセンターを見学、太田ゴルフ場でパークゴルフを楽しんだ後、八王子公園で盛大なバーベキュー。料理を味わいながらの大きな花火のサービスに歓声が上がった。名残惜しくも翌日太田を後にした。



新たに芽生えた交流の輪！

7月22日から3日間、太田市と姉妹都市提携を結んでいる愛媛県今治市から今治ジュニアが来訪し、親善試合や市内観光で交流を深めた。

姉妹都市・太田と今治 今夏から交流始まる！ 姉妹都市スポーツ交流事業

7月29日(日)の群馬県スポーツ少年団大会では、オール群馬VSインディアナチームの親善試合を行い、オール群馬が勝ち越した。

木村政貴(千代田) 2連覇でMVP

全国中学生レスリング選手権

6月23、24日、水戸市スポーツセンターにおいて「第33回全国中学生レスリング選手権大会」が行われた。今大会の本県注目選手は、昨年覇者の木村政貴(千代田中3年)。2年連続優勝に万全の自信で臨んだ今年度は「最優秀選手賞を狙う」と力強く宣言。その言葉どおり全く他を寄せ付けず完全優勝。文句なしの最優秀選手賞を獲得した。同じく千代田ジュニアの金子和(同中2年)が第2位、木村安里(同中1年)が第3位に入賞。また、1月の千葉県との親



中学生では国内敵なし！木村政貴

富塚拓也が貴塚の優勝！ 福田翼は第3位入賞！ 全国高校グレコローマン選手権

8月17、19日、大阪・金岡公園体育館において「第23回全国高校グレコローマン選手権大会」が行われた。インターハイ王者として大阪に乗り込んだ66 kg級・富塚拓也(関学3年)は、グレコではもはや横綱相撲。危なげのない優勝を飾り、3冠制覇へ向けて充実振りを見せつけた。74 kg級・福田翼(富実高3年)は第3位に入賞。大学での一層の活躍が望まれる逸材である。

松本隆太郎(日体大4年) フオール賞独占優勝！ 全日本学生レスリング選手権

8月21、24日、駒沢公園体育館で「第63回全日本学生レスリング選手権大会」が行われた。本県出身の「五輪に最も近い男」60 kg級・松本隆太郎(千代田jr-館高-日体大4年)が最多フオール賞、最短フオール賞を独占する圧倒的強さで2度目の優勝を果たした。



教育実習で館高に来ていた松本隆太郎

木村優太が全国初優勝！ 阿部友香も金メダル！ 全国少年レスリング選手権

8月10、12日、駒沢公園体育館において「第24回全国少年少女レスリング選手権大会」が行われた。全中王者・木村政貴の弟、木村優太が兄に続けとばかりに優勝。そのほか次

なごJUNMAのレスクイーン



館林ジュニアレスリングクラブ
岡田千晴さん(中3)

私は兄の影響で小6からレスリングを始めました。最初は邑楽ジュニアでお世話になりました。今は館林ジュニアで練習をしています。レスリングは楽しいです。相手を投げたり倒したりすることは気分そう快です。尊敬するレスラーはやっぱり清水真理子先生(西邑楽高校監督)です。清水先生のように強くなりたいという気持ちはありますが、将来の目標とか、高校、大学で続けるかとか、先のことはあまり考えていません。それよりも、私の場合は1勝でも多く勝つこと。ジャパンクイーンズカップで1勝したことがいい思い出です。もっと勝てるように頑張ります。